

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2022年2月1日放送分・百騎丁／森徳横丁】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送と合わせてお楽しみください！

- 歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さん。私と2人で「芭蕉の辻」から、奥州街道を北上する旅の途上です。今回は東二番丁通沿い、広瀬通を少し北に渡った所にある石碑からです。
- 本を見開いた形の石碑は「青柳文庫跡地」です。天保2年(1831)青柳文蔵という商人が蔵書と資金を寄付して、藩校「養賢堂」の医学部門構内に成立した日本最初の図書館です。庶民にも広く公開したとは、身分制度の時代に画期的ですね。江戸時代の人々が、寺子屋で読み書きそろばんを学んでいて、識字率が高かった事の証でもあります。

- 辻標は、タワービルの足元にある「百騎丁／森徳横丁」です。百騎丁は東二番丁の別名です。閑静な武家屋敷街であった東二番丁。中級の騎馬侍が多く住む地域でした。だから「百騎丁」というわけ。
- 森徳横丁は、明治に入って「森徳座」という芝居小屋ができたためこの名で呼ばれるようになった通りです。その前は荒れ果てており、「化物横丁」という、ありがたいないあだ名が付いていました。でも、この横丁は今「名もない通り」になってしまいましたから、たとえ「化物横丁」でも、名なしの権兵衛よりは味わいがあったかも？
- 〈文・佐々木淳吾〉

